

# テクノショットモルタル(普通タイプ)(急硬タイプ)

## ノンポリマー吹付け断面修復材料

### 1 はじめに

「テクノショット工法」は、ノンポリマーのプレミックスタイプの断面修復材(テクノショットモルタル)を現場にて練混ぜ、吹き付ける直前に硬化促進剤(テクノショットAF)を混合することで、はく落のない安定した断面修復を実現した新しい断面修復工法です。

断面修復材は流動性に優れているため、一般的な湿式吹付けによる断面修復工法に比べ、長距離圧送、大量施工が可能な工法です。また、原料として無機特殊混和材を用いることにより、ノンポリマーでも高い付着強度、ひび割れ抵抗性を有しています。

### 2 特長

- ノンポリマー型の断面修復材を使用しています。
- 練混ぜたモルタルの長距離圧送(100m以上)が可能です。・・・(普通タイプ)
- 短時間での硬化をさせることで寒冷地(-10℃程度)での施工が可能です。・・・(急硬タイプ)
- 一般的な湿式吹付けによる断面修復工法よりも施工能力に優れるため、大量施工に適しています。
- 一度に10cm以上の厚みの施工も可能です。

### 3 用途

- 一般タイプ:長距離圧送・厚付け性を要求される吹付け補修
- 急硬タイプ:寒冷地・緊急工事などの吹付け補修

### 4 荷姿

テクノショットモルタル(普通タイプ)(急硬タイプ) :25kg袋

テクノショットAF :25kgキュービテナ容器

### 5 配合

標準配合(単位:kg)

	テクノショットモルタル普通タイプ			テクノショットモルタル急硬タイプ			
	モルタル	水	テクノショットAF*	モルタル	水	テクノショットAF*	セッター
1袋あたり	25	3.6	0.5	25	3.3	0.5	(38g)
1m <sup>3</sup> あたり	1950	283	39	1950	260	39	3

※テクノショットAFは、テクノ、テクノショットモルタルに対して、標準添加率は2%(可変使用)です。

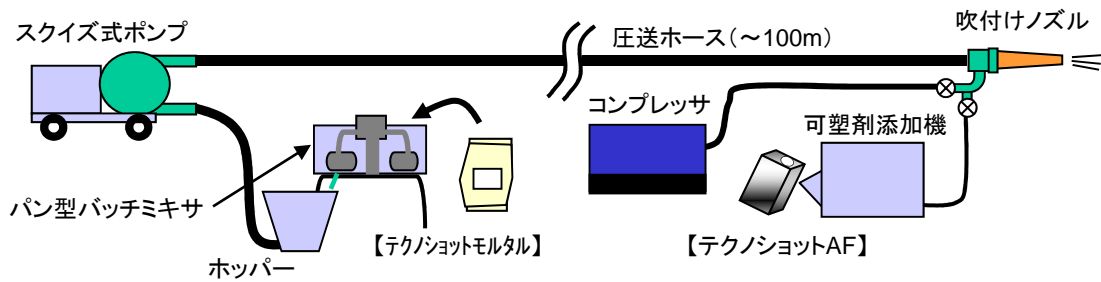
### 6 標準使用量

施工厚み10mmで、1m<sup>2</sup>当りテクノショットモルタルを約20kg、テクノショットAFを0.4kg使用する。

## 7 物性値(測定例)

項目	単位	材齢	テクノショットモルタル 測定値(例)			測定方法
			普通タイプ	急硬タイプ		
モルタルフロー	mm	直後	170~220 (0打フロー)	170~230 (15打フロー)		JIS R 5201
強度特性		試験温度	20℃	5℃	20℃	
圧縮強度	N/mm <sup>2</sup>	3時間	—	7.0	8.1	JIS R 5201 各温度で水中養生
		1日	17.5	11.3	16.5	
		7日	42.2	25.1	35.3	
		28日	54.3	45.3	51.7	
曲げ強度	N/mm <sup>2</sup>	7日	6.2	4.5	6.2	JIS R 5201 各温度で水中養生
		28日	8.5	6.7	7.8	
付着強度	N/mm <sup>2</sup>	7日	1.8	1.2	1.7	コンクリート板による 建研式接着力試験
		28日	2.3	1.5	2.0	

## 8 施工システム例



※施工方法の詳細については、「テクノショット工法技術資料」を御参照下さい。

## 9 使用上の注意

- テクノショットモルタル、テクノショットAFに他のセメント、砂、混和材(剤)等を加えないで下さい。
- モルタルの施工性は温度、湿度等の環境条件により変化します。使用前に試練りで可使時間、作業性等を確認して下さい。
- 製品は乾燥した冷暗所で保管してください。

### データ等記載内容についてのご注意

- 本書記載のデータ等記載内容は、代表的な実験値や調査に基づくもので、その記載内容についていかなる保証をなすものではありません。
- ご使用に際しては、必ず貴社にて事前にテストを行い、使用目的に適合するかどうかおよび安全性については、貴社の責任においてご確認ください。
- 本書記載の当社製品およびこれらを使用した製品を廃棄する場合は、法令に従って廃棄してください。
- ご使用になる前に、詳しい使用方法や注意事項等を技術資料・製品安全データシートで確認してください。  
これらの資料は、当社の担当部門にご用意してありますので、お申しつけください。
- 本書の記載内容は、新しい知見により断りなく変更する場合がありますので、ご了承ください。

# Denka



**警告**



- 水や汗・涙等の水分と接触すると強いアルカリ性になり、皮膚、目、呼吸器等を刺激したり、粘膜に炎症を起こします。
- 目に入れないこと。入った場合は、直ちによく洗浄し、専門医の診断を受けること。
- 皮膚に付けないこと。
- 鼻や口に入れないこと。
- 保護メガネ、防塵マスク、ゴム手袋を着用すること。
- 子供に触れさせないこと。